

医療安全と質を保証する患者状態適応型パス (PCAPS)

H25 年度 PCAPS 研究会 中間シンポジウム

PCAPS の実装と臨床分析

プログラム

日時：2013 年 9 月 28 日（土） 10:00～17:00 終了予定（途中昼休憩 1 時間）

会場：東京大学 工学部 2 号館 213 号室

はじめに

臨床知識構造化手法 PCAPS (Patient Condition Adaptive Path System: 患者状態適応型パス) は、状態適応型介入という医療の本質を反映した臨床知識の構造モデルを提示しており、その構造に基づき、現実の臨床プロセスを設計した知識コンテンツを開発できます。それら知識コンテンツを標準化/電子化し関係者が利用できる条件を整えることで、効率的/効果的に臨床知識の再利用を実現することができます。PCAPS を活用することで臨床プロセスの実施記録が構造をもって残るため、これまでは困難であった分析が可能となり、多様な分析結果の活用につながります。これら一連の臨床知識コンテンツの活用により、医療経営改善・臨床改善がすすみ、臨床知識コンテンツそのものの改善もすすみます。PCAPS は、「医療社会システム」を実現するためのコアツールです。

標準化・最適化された構造化臨床知識は、世に多くの知識が氾濫し、多様な知識・情報提供サービスがビジネスとして成立するなかで、安全・安心で豊かな社会の実現の基盤に組みこまれるべき、社会が真に求めている知識形態のひとつといえるのではないのでしょうか。

そうした社会ニーズを強く感じながら、PCAPS 研究会は壮大な構想のもとに開発研究を進めてきました。今年度から次年度にかけて、臨床の叡智である「PCAPS 臨床知識コンテンツ」と「実臨床の場」をリンクし知識の再利用を実現するために開発された PCAPS-Administrator が実際の臨床現場で運用され始めます。われわれは、PCAPS-Administrator を通して蓄積される構造化サマリーデータを用いて多様な臨床分析を実現する PCAPS-Analyzer の開発を開始しました。PCAPS 臨床知識コンテンツを実際に運用することで、各医療領域の質保証されたチーム医療を遂行する臨床マネジメントシステムを実現できます。このような臨床の質マネジメントを地域・病院・診療所・在宅・介護施設等で実現させるため、多様な臨床知識コンテンツの整備と、臨床分析手法の開発が、PCAPS 研究会で進められています。

本シンポジウムでは、PCAPS 実運用研究、PCAPS 導入準備方法、PCAPS を用いた多様な臨床分析、また PCAPS が追求している医療の質改善を行う重要なしくみである質評価構造モデルと質評価指標に関する開発研究、診療ガイドラインの開発・活用・改善への貢献について、平成 25 年度の間報告をいたします。

PCAPS 研究会 代表：水流聡子

顧問：飯塚悦功

アドバイザー：棟近雅彦

※PCAPS (Patient Condition Adaptive Path System : 患者状態適応型パス)

主催：PCAPS 研究会、東京大学工学系研究科 医療社会システム工学寄付講座

後援：PCAPS-IMT コンソーシアム

研究助成：平成 25 年度厚生労働科研第 3 次対がん総合戦略研究事業（若尾班）

平成 25 年度厚生労働科研地域医療基盤開発推進研究事業（中山班）

司会：水流聡子（東京大学）

午前の部

10:00-10:20

I：統括報告：PCAPS 研究の今と今後の方針

水流聡子（東京大学）

10:20-11:10

II：PCAPS 導入に関する研究報告

- | | |
|--------------|----------------|
| ▪ 聖マリア病院 | 荒木昭輝（聖マリア病院） |
| ▪ 飯塚病院 | 名取良弘（飯塚病院） |
| ▪ 禎心会病院 | 伊東敏弘（禎心会病院） |
| ▪ 久留米大学病院 | 下川忠弘（久留米大学病院） |
| ▪ 小児地域医療システム | 本木隆規（慈恵医大第三病院） |

11:10-12:10

III：「がん診療プロセスの質評価 ーがん診療体制の質評価システム開発ー」 [パネルディスカッション]

- | | |
|---------------------|------------------|
| ▪ パネルリーダー：若尾文彦、水流聡子 | |
| ▪ パネリスト： | |
| ▪ 名取良弘（飯塚病院） | ▪ 羽藤慎二（四国がんセンター） |
| ▪ 吉岡慎一（兵庫県立西宮病院） | ▪ 飯塚悦功（東京大学） |
| ▪ 秋山聖子（東北大学病院） | |

~~~~~  
昼休み(60 分)  
~~~~~

午後の部

13:10-13:40

IV：ガイドラインと PCAPS

- | | |
|------------------------------|--------------|
| ▪ ガイドラインの開発に関する国際動向・国内動向 | 中山健夫（京都大学） |
| ▪ 院内及び院外連携のための動脈硬化症管理システムの開発 | 盛重邦雄（聖マリア病院） |

13:40-15:10

V：PCAPS 臨床分析に関する研究報告

- | | |
|--|----------------------|
| ▪ リハビリ：嚥下障害・運動麻痺に対する介入方法の分析 | 井手睦（聖マリア病院） |
| ▪ 小児科：食物アレルギー負荷試験 | |
| 本木隆規（慈恵医大第三病院）・箕浦貴則（岩切病院）・藤原優子（慈恵医大附属病院） | |
| ▪ 褥瘡：褥瘡局所管理の標準化にむけた判断アルゴリズムの作成と検証 | |
| ー 褥瘡予防・管理ガイドラインを活用して ー | |
| ▪ 栄養：嚥下障害患者に対する栄養管理の実際 | 渡邊千登世（聖路加看護大学大学院） |
| ▪ 呼吸器内科：喘息発作時の介入方法 | 道脇幸博（武蔵野赤十字病院） |
| ▪ 呼吸器内科：COPD 急性増悪時の介入方法 | 蝶名林直彦（聖路加国際病院） |
| | 茂木孝（日本医科大学呼吸ケアクリニック） |

休憩(10分)

15:20-16:20

Ⅵ:臨床知識の構造化:ポスターセッション(ラウンド形式, 1領域質疑込 10分)

※ポスターセッション会場は、会場を出た廊下になります。座長の方・発表者は開始 10 分前にはお集まりください。

ストリームⅠ 座長:吉岡慎一(兵庫県立西宮病院)

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| ・がん薬物療法:地域連携 | 秋山聖子(東北大学病院) |
| ・看護ナビ:看護知識ナビコンテンツ活用開始1年の結果と課題 | 井原資子・姫野美佐子(飯塚病院) |
| ・在宅看護:在宅看護観察の焦点化と実装に向けての準備状況 | 佐野けさ美(スギメディカル株式会社) |
| ・栄養:栄養食事コンテンツの作成 | 長谷川由美(新東京病院) |
| ・循環器内科:動脈硬化症管理システムの開発 | 盛重邦雄(聖マリア病院)・森屋功一(KCCS) |

ストリームⅡ 座長:茂木孝(日本医科大学呼吸ケアクリニック)

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| ・呼吸器内科:喘息発作時の介入 | 本橋和音・千々輪香織・内山真木子(聖路加国際病院) |
| ・服薬指導:COPD増悪後の服薬指導管理 | 田窪真行・植田恵子(スギ薬局) |
| ・呼吸器内科:COPD増悪時の訪問看護介入 | 山路聡子(群馬県看護協会) |
| ・呼吸器内科:COPD増悪後のリハビリ介入 | 長谷川信(群馬大学医学部附属病院) |
| ・在宅酸素:在宅酸素療法の導入・管理 | 酒井志野(帝人ファーマ) |

ストリームⅢ 座長:名取良弘(飯塚病院)

- | | |
|-----------------------------|----------------|
| ・リハビリ1:PT, OT領域の取り組み | 大塚渉(聖マリア病院) |
| ・リハビリ2:ST領域の取り組み | 脇坂勇輝(聖マリア病院) |
| ・小児:低身長への取り組み | 本木隆規(慈恵医大第三病院) |
| ・回復期医療:PCAPS実運用へ向けた進捗報告 | 進藤晃(大久野病院) |
| ・精神科:電子カルテ導入に伴うPCAPS対応の進捗状況 | 東川貞男(石川県立高松病院) |

16:20~16:40

Ⅶ:PCAPS Administrator デモセッション

- | | |
|----------------------------|------------------|
| ・飯塚病院 手術コンテンツ | 名取良弘(飯塚病院) |
| ・聖マリア病院 動脈硬化症管理システム・リハビリ嚆下 | 盛重邦雄・井手睦(聖マリア病院) |
| ・その他 | |

16:40

Ⅷ:講評

顧問

飯塚悦功(東京大学)

『医療の質安全保証に向けた臨床知識の構造化(4)』

患者状態適応型パス [PCAPSの活用と臨床分析] (日本規格協会) 本体価格:5,500円

水流聡子・飯塚悦功・棟近雅彦監修 患者状態適応型パスシステム研究会編著





【シンポジウム会場】

本会場：東京大学本郷キャンパス工学部2号館213号室

ポスター会場：東京大学本郷キャンパス工学部2号館213号室の廊下

研究会メンバー用昼食会場：工学部8号館7階 702号室・708号室・722号室

研究会メンバー・関係者用懇親会会場：『Bon Art』（Tel：03-3812-3212）

シンポジウム運営組織

代表	水流聡子（東京大学）	
アドバイザー	棟近雅彦（早稲田大学）	
顧問	飯塚悦功（東京大学）	
運営 スタッフ	<PCAPS 事務局> 加藤省吾（東京大学） 下野僚子（東京大学） 大森美保（東京大学） 谷崎浩一（東京大学） 佐藤典子（東京大学）	<学生スタッフ> 太田耕右（東京大学修士課程） 小林翔平（東京大学工学部） 小田紘之（東京大学工学部） 高尾璃加（東京大学工学部） 田淵拓也（東京大学工学部） 坪根永（東京大学工学部）

問い合わせ先：

PCAPS 事務局

E-mail：Office_PCAPS@umin.ac.jp

TEL：03-5841-7301 FAX：03-5841-7276

本研究事業 HP：<http://plaza.umin.ac.jp/~A-epath/index.html>

注意：カメラ撮影はご遠慮ください。PCAPS は各種特許申請済みです。